

授業科目名	経済学入門（経）	担当教員名	藤井 美男				
科目ナンバリング		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	1年生

授業概要	過去との対話を通じて学ぶ経済学「超」入門					
	本講義は、入学して間もない1年生を主たる対象として、ミクロ経済学やマクロ経済学あるいはそれらの応用編を学ぶ大前提としての基礎的な内容を軸に展開される。そもそも人間の経済的営みとは何か、という考察から始まり、現代経済社会の基本的特徴と意義の把握、それが形成されてくる背景と理由、経済「世界」を眺めるさまざまな視点、そしてミクロ経済学とマクロ経済学の基礎的把握などが内容となる。					
到達目標	経済について一定の関心を持てるようになる。また、経済的現象について一定の考察をすることができるようになる。そして、経済的事実や経済学的用語などを必要な文脈に沿って的確に説明できるとともに、自己の見解を述べることができるようになる。					
評価の方法と基準	評価方法	割合（％）	評価基準・その他備考			
	平常点					
	小テスト	10	中間ミニテスト（あるいはミニ課題）を全体評価の10％とする。（予定）			
	レポート					
	定期試験	90	定期試験の結果を全体評価の90％とする。（予定）			
	その他					
事前・事後学習	本講義は特定の教科書を定めず、事前に配布（配信）するPDFファイルの資料を用いるノート講義とする。事前にそれを読読して大まかな内容を把握しておく必要がある。そして、授業後はその内容を反復しつつ自分なりに整理することで、経済学に関する基礎知識を涵養することができる。					
事前受講を推奨する科目						
教科書	書籍名	著者	出版社	出版年		
	『教科書は使用しない。』					
参考書	書籍名	著者	出版社	出版年		
	『授業の中で随時紹介する』					
備考	本講義は、新型コロナウイルス感染症対策のため、オンデマンド授業に変更することがある。講義資料のダウンロードや授業の詳細については、Googleclassroom等を通じて通知されるので、遺漏しないよう留意することが必要である。なお、授業の内容と進行についてシラバスに変更を加えることがある。その場合は授業中に説明する。					

授業の計画

1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価方法、講義全体像の紹介（シラバス参照）
2	「経済」とはなにか	コロナ・パンデミックで露わとなった人間の「経済的営為」の本質
3	現代経済社会の特質とはなにか	資本主義社会の特徴をつかむ
4	市場型経済社会の成立過程（1）	パックス・ブリタニカに至る道を事例として（1）
5	市場型経済社会の成立過程（2）	パックス・ブリタニカに至る道を事例として（2）
6	経済的合理性とはなにか（1）	経済的合理性（＝資本主義の精神）の源流（1）
7	経済的合理性とはなにか（2）	経済的合理性（＝資本主義の精神）の源流（2）
8	中間ミニテスト（あるいはミニ課題）実施	10点満点のミニテスト(あるいはミニ課題)を実施（予定）
9	様々な経済観（1）	アダム・スミスからウォーラステインまで（1）
10	様々な経済観（2）	アダム・スミスからウォーラステインまで（2）
11	経済学「超」入門（1）	ミクロ経済学・マクロ経済学：基礎の基礎を学ぶ（1）
12	経済学「超」入門（2）	ミクロ経済学・マクロ経済学：基礎の基礎を学ぶ（2）
13	経済学「超」入門（3）	ミクロ経済学・マクロ経済学：基礎の基礎を学ぶ（3）
14	経済学「超」入門（4）	ミクロ経済学・マクロ経済学：基礎の基礎を学ぶ（4）
15	全体のまとめ	本講義の全体的な整理と総括

授業科目名	マクロ経済学（経）	担当教員名	磯谷 明德				
科目ナンバリング		開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	1年生

授業概要	<p>マクロ経済学は、経済を巨視的にとらえ、経済全体の性質について考えようとする経済学の分野である。マクロ経済学は、景気、雇用、物価、通貨、為替など、経済全体に関わる問題を対象にする。本講義では、マクロ経済学の基本的な概念や考え方を理解することに主眼を置き、「なぜマクロ経済学は必要か」から始めて、一つのストーリーとしてマクロ経済学という学問を理解できるような形で講義する。</p> <p>なお、この「マクロ経済学」では、マクロ経済学という学問全体の6割程度の内容が講義される。残りの4割程度については、「マクロ経済学（2年次春学期）」で講義されるのを注意して欲しい。</p> <p>（【経済学科学生への注意】：上で記述のように、マクロ経済学は2年次春学期に開講される。マクロ経済学に続いて、マクロ経済学を連続して履修することを強く推奨する。）</p>
------	--

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>マクロ経済学の基本的な概念を理解する。</li> <li>現実のマクロ経済の動向をマクロ経済学の基礎的な知識と考え方をを用いて理解することに関心を持てるようになり、今後のより専門的な経済学の学習の基礎的な素養を習得することを目標とする。</li> <li>マクロ経済学の基礎知識を身につけることで、日ごろ見聞きする経済ニュースに直結する経済現象や政策について、自分なりの判断や評価ができるようになる。</li> </ul>
------	--

評価の方法と基準	評価方法	割合（％）	評価基準・その他備考
	平常点	40	ミニッツペーパーの提出
	小テスト	20	理解度確認テスト。複数回実施予定
	レポート		
	定期試験	40	期末試験
	その他		

事前・事後学習	事前学習として、前回の講義内容を復習しておくこと。毎回の講義に対して、ミニッツペーパーの提出が必須なので、講義内容への疑問点などを事後学習として整理すること。
---------	---

事前受講を推奨する科目	
-------------	--

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『教科書は使用しない。』			

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年

備考	
----	--

授業の計画

1	授業ガイダンス	講義の進め方、成績評価の方法・基準などについて説明する。
2	なぜマクロ経済学は必要か	ミクロ経済学とは別個に、なぜマクロ経済学という学問分野が存在するのかについて説明する。
3	なぜマクロ経済学は必要か	第2回講義の続き
4	国民所得の測定	GDPとは何かなど、国民所得統計について説明する。
5	国民所得の決定 -1	消費関数と45度線分析（前編）
6	国民所得の決定 -2	消費関数と45度線分析（後編）
7	国民所得の決定 -1	45度線分析とマクロ経済政策の基礎（前編）
8	国民所得の決定 -2	45度線分析とマクロ経済政策の基礎（後編）
9	国民所得の決定 -1	乗数理論（前編）
10	国民所得の決定 -2	乗数理論（後編）
11	国民所得の決定 -1	投資関数：投資と利子（前編）
12	国民所得の決定 -2	投資関数：投資と利子（後編）
13	国民所得の決定 -1	利子と貨幣（前編）
14	国民所得の決定 -2	利子と貨幣（後編）
15	IS-LM分析	ケインズ体系とIS-LM分析

授業科目名	ミクロ経済学（経）	担当教員名	野津 隆臣				
科目ナンバリング		開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	1年生

授業概要	<p>ミクロ経済学に関する基礎的な知識、考え方を学ぶ。          ものをつくり（生産）、つくったものを売買を通して他者とやりとりし（交換）、つかう・楽しむ（消費）、そんな世の中に私たちは生きている。これら生産、交換、消費のプロセスすべてにミクロ経済学は注目する。本科目では特に、売買の当事者たちの行動について、ミクロ経済学ではどのように考えるか理解し、さらに、さまざまなものの価格と取引量の変化を同じ原理で説明できることを学ぶ。</p>
------	--

到達目標	<p>身のまわりの事象をミクロ経済学の専門用語にあてはめて考えられる。          ・完全競争市場において市場参加者が価格受容者になる理由を説明できる。          ・「需要量」と「需要」、「供給量」と「供給」を適切につかい分けられる。          ・現実の経済現象における様々な財・サービスの価格と取引量の変化を、需要曲線と供給曲線を用いて説明できる。</p>
------	--

評価の方法と基準	評価方法	割合（％）	評価基準・その他備考
	平常点	30	講義中に指示する
	小テスト		
	レポート		
	定期試験	70	講義中に指示する
	その他		

事前・事後学習	<p>毎回の授業の予習として、2時間以上をかけて、講義資料を参照すること。          毎回の授業の復習として、2時間以上をかけて、その授業で重要と思った点を中心にノートに整理し、内容を検討すること。また、授業で提示される課題を検討すること。また、参考書等の対応部分を参照し、内容を検討すること。</p>
---------	---

事前受講を推奨する科目	
-------------	--

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『ミクロ経済学の第一歩』	安藤至大	有斐閣	2021
	『マンキュー入門経済学』	N・グレゴリー・マンキュー	東洋経済新報社	2019

備考	
----	--

授業の計画

1	イントロダクション	経済学の専門用語（トレードオフ、機会費用、インセンティブ等）を用いて、身近な事象を表現してみる。
2	財、サービス、価格	価格とは何か身近な財・サービスで考える
3	価格受容者の想定と需要	価格受容者について学ぶ。完全競争市場では全買い手が価格受容者になることを学ぶ。
4	需要曲線と需要の法則	価格受容者としての買い手の行動の性質を考える。
5	需要量と需要	「需要量」と「需要」の違いを学ぶ。
6	価格弾力性	価格弾力性について学ぶ。
7	需要の変化、需要曲線のシフト	身近な事象を通じて「需要量」の変化や、「需要」の変化について学ぶ。需要の変化と需要曲線のシフトを関連づける。
8	価格受容者の想定と供給	完全競争市場では全売り手が価格受容者になることを学ぶ。
9	供給曲線と供給の法則	価格受容者としての売り手の行動の性質を考える。
10	供給量と供給	「供給量」と「供給」の違いを学ぶ。
11	価格弾力性	価格弾力性について学ぶ。
12	供給の変化、供給曲線のシフト	身近な事象を通じて「供給量」の変化や、「供給」の変化について学ぶ。供給の変化と供給曲線のシフトを関連づける。
13	均衡点	需要のグラフと供給のグラフを一緒に描き、様々な価格下で市場参加者の行動を考える。
14	曲線のシフトと均衡点の変化	需要曲線や供給曲線がシフトするとき、価格や取引量がどうなるかを考える。
15	需要と供給で解く経済問題	身近な事象を通じて、需要と供給のグラフのつかい方に慣れる。

授業科目名	経済原論（経）	担当教員名	関野 秀明				
科目ナンバリング		開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	1年生

授業概要	この講義のねらいは、今、私たちが暮らしている社会の基本システムである「資本主義」が私たちを取り巻くさまざまな人間関係に及ぼす肯定的、否定的影響を与えてきたかについて理論的に考えることです。なぜ人間が作り出した「貨幣」が人間を支配するようになったのか、なぜ人類史上空前の豊かな生産力を実現した「資本主義」が戦争も貧困も解決できないのか、なぜ中高年のリストラ・失業、若者の就職難と働きすぎ・過労死といった問題が同時におこるのか、といった現実のシビアな問題に取り組んで欲しいのです。
------	--

到達目標	貨幣のもつ魔力の科学的根拠を理解する 剰余価値・利潤が働く人からの搾取で成り立つことを理解する 成果主義賃金が「頑張るほど奪われる賃金制度」であることを理解する 資本の蓄積と貧困の蓄積は表裏一体であることを理解する 利潤のための経済が過剰な生産と制限された消費を生み停滞に至ることを理解する
------	---

評価の方法と基準	評価方法	割合（％）	評価基準・その他備考
	平常点		
	小テスト		
	レポート		
	定期試験	100	
	その他		

事前・事後学習	毎回の授業は当日配布する「講義レジュメ」を用いる。そのうえで、月刊『経済』編集部編『変革の時代と資本論 マルクスのすすめ』、とくに第7章、関野秀明「マルクスの剰余価値理論」を読むことは、予習、復習、両方に役立つ。
---------	--

事前受講を推奨する科目	経済学入門	
-------------	-------	--

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『教科書は使用しない』			

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『新版資本論』	カール・マルクス	新日本出版社	2020年
	『変革の時代と資本論』	月刊経済編集部編	新日本出版社	2017年
	『経済学辞典』		大月書店	

備考	対面授業を予定している。対面授業の継続が困難になった場合は以下の通り。遠隔授業はgoogle driveの資料で実施。学年暦、時間割に従い資料提供。Powerpoint資料を閲覧しWord、PDF資料に書き込む。
----	--

授業の計画

1	資本論の経済学とは何か	歴史研究、法則性研究、発生論的・弁証法的方法、階級性
2	商品論1	商品と労働の二重性
3	商品論2	価値形態論
4	商品論3	物神性論
5	商品論4 貨幣論1	交換過程論 貨幣の価値尺度
6	貨幣論2	流通手段 蓄蔵貨幣 支払手段 世界貨幣
7	剰余価値論1	貨幣の資本への転化
8	剰余価値論2	生産過程 絶対的剰余価値論
9	剰余価値論3	相対的剰余価値・特別剰余価値論
10	賃金論1	労働の価値と労働力の価値
11	賃金論2	時間賃金制度
12	賃金論3	出来高賃金制度
13	資本蓄積論1	所有法則の転換
14	資本蓄積論2	相対的過剰人口
15	資本蓄積論3	資本と貧困の蓄積 資本主義の歴史的傾向

授業科目名	経済数学	担当教員名	野津 隆臣				
科目ナンバリング		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	1年生

授業概要	<p>本科目では「経済学に必要な数学」を学ぶ。大学の経済学の授業を理解するため、また、経済学の文献を独力で読むために知っておくとよい数学の「定理や公式」を学ぶ。</p> <p>中高の数学の復習を交えながら進める。数学好きにとっては、中高の数学からの復習では物足りなく感じるかもしれない。しかし、「定理や公式の導出方法の厳密な理解」や、それらの数学をどのように経済学に応用するかを併せて学ぶことで、数学好きにとっても楽しんで学習を進められる授業構成としたい。</p>
------	--

到達目標	<p>経済学部経済学科目の授業内容を理解するために必要な数学を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1次関数のグラフを描け、連立方程式の解との対応を直観的に理解できる。</li> <li>・指数や対数が経済学でどのように用いられるか理解し、それらの計算ができる。</li> <li>・微分の計算をできる。</li> <li>・微分を用いて経済学の最適化問題を解ける。</li> </ul>
------	---

評価の方法と基準	評価方法	割合 (%)	評価基準・その他備考
	平常点	30	講義中に指示する
	小テスト		
	レポート		
	定期試験	70	講義中に指示する
	その他		

事前・事後学習	<p>毎回の授業の復習として、4時間以上をかけて、その授業で重要と思った点を中心にノートに整理し、内容を検討すること。それをふまえて演習問題（授業中に指示される）を解くこと。</p>
---------	---

事前受講を推奨する科目		
-------------	--	--

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年

備考	<p>講義スライドを用いて授業を進める。教科書は指定しない。掘り下げて勉強したい人のために、参考書は別途教示する。</p>
----	---

授業の計画

1	イントロダクション	事前準備として基本的な計算について確認する 数学が経済学にどのように応用されるか例示する
2	グラフの読み方	需要と供給のグラフを用いてグラフの読み方を学ぶ
3	1次関数	1次関数と1次関数のグラフを学ぶ
4	連立方程式	直線の交点と連立方程式の解が一致することを学ぶ
5	指数法則	指数法則を理解する
6	対数法則	対数法則を理解する
7	単利と複利	指数法則、対数法則を復習し、複利計算をする
8	投資・貯蓄	指数法則、対数法則を復習し、貯蓄・投資の考え方を学ぶ
9	数列	数列について学び、貯蓄・投資の考え方を学ぶ
10	微分の定義	微分の定義を学び、定義に従って微分をする
11	微分の計算	微分の意味を知る。べき関数を微分できるようになる
12	最適化問題(1)	微分をつかって効用最大化問題や費用最小化問題を解く
13	最適化問題(2)	微分をつかって効用最大化問題や費用最小化問題を解く
14	微分の計算の応用	微分計算をする際に便利な公式を理解する
15	全体のまとめ	全体のまとめを行う

授業科目名	国際経済学入門（経・公）	担当教員名	猿渡 剛				
科目ナンバリング		開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	1年生

授業概要	この授業は国際経済・グローバルビジネスの入門的内容を扱います。国際経済やグローバルビジネスに関心を持つ学生が理論と実際について基礎から学べるよう目指していきます。 授業ではまず、国際経済・グローバルビジネスを巡る環境について解説します。グローバル化の歴史的経緯、グローバル化を巡る課題や議論について説明します。次に、国際経済・グローバルビジネスの枠組み、具体的には保護主義化が強まっている最近の傾向を踏まえ、保護政策と自由貿易の論点のほか、世界貿易機関（WTO）の役割と課題についてみていきます。最後に、市場と経営資源を見据えた企業戦略について考察・分析するために有用なフレームワークを時間が許す限り紹介します。					
到達目標	国際経済・グローバルビジネスを巡る最近のトピックスを把握する。国際経済・グローバルビジネスを後方から支える制度的枠組みを理解する。さまざまな市場参入モデルの特徴や留意点を理解する。～を通じて、国際経済・グローバルビジネスの基礎について理解し、適切な企業戦略について自ら考え、議論することができるようになる。					
評価の方法と基準	評価方法	割合（％）	評価基準・その他備考			
	平常点					
	小テスト	30	小テストを2回課す予定です。			
	レポート					
	定期試験	70	空欄補充問題と論述問題で構成される期末試験があります。			
その他						
事前・事後学習	事後学習として資料や動画に再度目を通し、授業内容を各自整理しておいてください。					
事前受講を推奨する科目						
教科書	書籍名	著者	出版社	出版年		
	『グローバルビジネスの流儀』	池下譲治	晃洋書房	2023年		
参考書	書籍名	著者	出版社	出版年		
備考	PPTスライドまたは板書によって授業を進めていきます。					

授業の計画

1	イントロダクション	授業概要、授業の進め方、評価の方法と基準
2	グローバリゼーション(1)	グローバリゼーションとは何か、グローバリゼーションの現在・過去・未来
3	グローバリゼーション(2)	グローバル化を巡る議論
4	通商政策とWTO(1)	世界貿易の動向と分析、保護主義の台頭
5	通商政策とWTO(2)	関税、保護政策 V S 自由貿易の論点
6	通商政策とWTO(3)	世界貿易機関(WTO)の役割と課題
7	海外直接投資の動向・理論・政策(1)	グローバリゼーションと海外直接投資
8	海外直接投資の動向・理論・政策(2)	海外直接投資の主要理論
9	海外直接投資の動向・理論・政策(3)	海外直接投資の効果とコスト
10	グローバル市場への参入戦略(1)	参入市場の決定、グローバル市場への参入
11	グローバル市場への参入戦略(2)	主な参入モデル、撤退戦略
12	グローバル・マーケティング(1)	4つの基本戦略と組織構造
13	グローバル・マーケティング(2)	パルミュッターのEPRGプロファイル、グローバル市場のセグメンテーション
14	グローバル・マーケティング(3)	マーケティングプログラムの決定(4P 4C 4A)、カントリー・オブ・オリジン効果
15	まとめ	授業の振り返り、期末試験についての説明

授業科目名	マクロ経済学	担当教員名	磯谷 明德				
科目ナンバリング		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	2年生

授業概要	<p>本講義は旧カリキュラムから新カリキュラムへの移行に伴って設けられた学科目である。したがって、本講義では、旧カリ対象学生向けの「マクロ経済学・再入門」として、2022年度春学期で講義された「マクロ経済学」の内容に「プラス」した講義内容での講義が実施される。</p>
------	--

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マクロ経済学の基本的な概念と枠組みを再度理解する。</li> <li>・マクロ経済学の基礎概念、基礎知識を身につけることで、日ごろ見聞きする経済ニュースに直結する経済現象や経済政策について、自分なりの判断や評価をできるようにする。</li> </ul>
------	--

評価の方法と基準	評価方法	割合(%)	評価基準・その他備考
	平常点	40	出席とミニッツ・ペーパーの提出
	小テスト	20	理解度確認テスト。複数回実施予定
	レポート		
	定期試験	40	期末試験
	その他		

事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学習として、前回の講義内容を復習しておくこと。</li> <li>・毎回の講義に対して、ミニッツ・ペーパーの提出が必須なので、講義内容への疑問点など事後学習として整理すること。</li> </ul>
---------	---

事前受講を推奨する科目		
-------------	--	--

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『教科書は使用しない。』			

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年

備考	
----	--

授業の計画

1	講義ガイダンス	講義の進め方、成績評価の方法・基準などについての説明。
2	なぜマクロ経済学は必要か	(以下は、仮のスケジュールである。講義の進度に応じて、講義テーマの変更がありうることを予め了解してもらいたい。)
3	国民所得 (GDP) の測定	
4	消費関数と 4 5 度線分析	
5	4 5 度線分析とマクロ経済政策の基礎	
6	乗数理論	
7	乗数理論	
8	投資関数：投資と利子	
9	投資関数：投資と利子	
10	利子と貨幣	
11	利子と貨幣	
12	ケインズ体系と IS-LM 分析	
13	IS-LM 分析とマクロ経済政策	
14	オープンマクロ経済学の基礎	
15	オープンマクロ経済学の基礎	

授業科目名	ミクロ経済学	担当教員名	野津 隆臣				
科目ナンバリング		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	2年生

授業概要	<p>ミクロ経済学の基礎的な知識・考え方を学ぶ。特に、自己の幸せ追求と豊かな社会の構築がどこまで両立するかについて学ぶ。</p> <p>私たちは、ものの生産、交換（売買）、消費が行われている世の中で生活している。経済学科向けミクロ経済学Iでは、売買の当事者たちが自らの幸せを第一に考えるときの行動について学んだ。では、彼らの取引は世の中の的にどう評価することができるだろうか。果たしてよいものだろうか。よいにせよ悪いにせよその善悪について、ミクロ経済学ではどのような考え方をするのだろうか。これらについて学んでいく。ミクロ経済学Iの内容について復習を交えながら進める。</p>
------	--

到達目標	<p>身のまわりの事象をミクロ経済学の専門用語にあてはめて考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・限界支払用意について理解する。消費者の意思決定問題について理解する。個別需要曲線、市場需要曲線を導出できる。</li> <li>・限界費用について理解する。企業（生産者）の利潤最大化問題について理解する。個別供給曲線、市場供給曲線を導出できる。</li> <li>・均衡点では総余剰が最大になることを説明できる。</li> </ul>
------	---

評価の方法と基準	評価方法	割合（％）	評価基準・その他備考
	平常点	30	講義中に指示する
	小テスト		
	レポート		
	定期試験	70	講義中に指示する
	その他		

事前・事後学習	<p>毎回の授業の予習として、2時間以上をかけて、講義資料を参照すること。</p> <p>毎回の授業の復習として、2時間以上をかけて、その授業で重要と思った点を中心にノートに整理し、内容を検討すること。また、授業中に提示される課題を検討すること。また、参考書の対応部分を参照し、内容を検討すること。</p>
---------	---

事前受講を推奨する科目	
-------------	--

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『ミクロ経済学の第一歩』	安藤至大	有斐閣	2021
	『マンキュー入門経済学』	N・グレゴリー・マンキュー	東洋経済新報社	2019

備考	
----	--

授業の計画

1	イントロダクション	経済学の専門用語（トレードオフ、機会費用、インセンティブ等）を用いて、身近な事象を表現してみる。
2	事前知識の確認	「需要量」や「需要」、「供給量」や「供給」等の用語を確認する。グラフの読み方を確認する。
3	限界支払用意	限界支払用意について知る。消費者の意思決定について考える。
4	正味便益と個別需要曲線	消費者ごとの需要曲線を描く。取引から消費者が得る「おトク感」を計算する。
5	市場需要曲線、消費者余剰	消費者全体の需要曲線を描く。消費者全体のおトク感を計算する。
6	生産と生産要素	生産要素の投入で生産物が得られることについて考える。
7	費用と利潤	生産者にとっての費用と利潤について考える。
8	供給量の決定、個別供給曲線	生産者ごとの供給曲線を描く。取引から生産者が得るおトク感を計算する。
9	市場供給曲線、生産者余剰	生産者全体の供給曲線を描く。生産者全体のおトク感を計算する。
10	均衡点と総余剰	需要と供給のグラフを同時に描いて市場全体のおトク感を計算する。
11	均衡点における総余剰最大化	均衡点において総余剰が最大化されることを確認する。
12	さまざまな資源配分と総余剰最大化の意義	数多くある資源配分のなかで市場経済は悪くないことを知る。
13	余剰で考える経済問題（1）	身近な事象を通じて余剰の考え方に慣れる。
14	余剰で考える経済問題（2）	市場介入の影響について考える。
15	総括	これまでの学習内容のまとめと補足を行う。

授業科目名	経済学史	担当教員名	川脇 慎也				
科目ナンバリング		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	2年生

授業概要	この授業では下記の授業計画にしたがって、市場経済社会の形成から説き起こし、19世紀の古典派経済学までの経済学説を取り上げます。様々な学説や思想はなぜ、どのように生まれたのか、その時代背景・思想・経済理論の関連について理解を深めます。現代社会における諸問題の解決策を模索するうえで、過去の議論はどのように役立つのでしょうか。一連の学習を通して、多様な経済学説・思想の知識と、それを活用する思考力を身につけましょう。授業は配布資料を使用する通常の講義形式です。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各経済学説の重要語句を理解し、説明できるようになる。</li> <li>2. 各経済学説の要点を簡潔にまとめることができるようになる。</li> <li>3. 各経済学説を歴史的な脈絡の中で理解することができるようになる。</li> <li>4. 経済学史の観点から、現代の経済問題を理解し、その解決策を考えることができるようになる。</li> </ol>						
評価の方法と基準	評価方法	割合 (%)	評価基準・その他備考				
	平常点	50	授業後のミニッツペーパーの内容で評価します。				
	小テスト						
	レポート						
	定期試験	50	試験問題は論述です。授業の要点をおさえた論述ができているかどうかで評価します。				
その他							
事前・事後学習	事前に配布される授業資料を熟読のうえ、授業に臨んでください。復習は重要語句を中心に授業内容を整理して再確認しましょう。						
事前受講を推奨する科目							
教科書	書籍名	著者	出版社	出版年			
	『教科書は使用しない』						
参考書	書籍名	著者	出版社	出版年			
	『経済学史』	小峯敦	ミネルヴァ書房	2021			
備考							

授業の計画

1	授業のガイド	受講上の注意、経済学史とは
2	市場経済社会形成の経済思想	所有権をめぐる自然法学思想：グロティウスとプーフENDORF
3	市場経済社会形成の経済思想	所有権と貨幣をめぐる思想：ジョン・ロックとヒューム
4	市場経済社会形成の経済思想	重商主義の展開
5	アダム・スミス	富の本質と重商主義批判
6	アダム・スミス	自由主義と国家の役割
7	マルサス	貧困の問題とマルサスの人口法則
8	マルサス	農業保護主義と有効需要政策
9	リカードウ	労働価値説と差額地代説
10	リカードウ	賃金-利潤相反論と穀物輸入の自由化
11	J. S. ミル	功利主義の精緻化
12	J. S. ミル	アソシエーションと国家の役割
13	カール・マルクス	剰余価値と搾取
14	カール・マルクス	有機的構成の高度化と産業予備軍
15	総括	古典派経済学の特徴と限界

授業科目名	経済統計	担当教員名	小柳 真二				
科目ナンバリング		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	2年生

授業概要	<p>経済統計を使いこなすには、どのような統計データがあるか、どのようにして作成されたものであるかを理解した上で適切なデータの選択や、効率的な収集を行う必要がある。本講義（経済統計 および ）では、経済統計への向き合い方や、個々の統計の特性について解説を行い、また実際の分析事例を示す。経済統計 では、基本的な統計処理のほか、主に人口や景気動向に関する統計データを広範に取り上げて解説する。</p>
------	---

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>統計データの基礎的な処理方法を習得する。</li> <li>世の中にどのような統計データがあるか知識を広め、分析のレパートリーを増やす。</li> <li>各種統計の利用シーンや有用性に加え、特有のクセや限界を理解する。</li> <li>統計データを読み解く力を身につける。</li> </ul>
------	--

評価の方法と基準	評価方法	割合（％）	評価基準・その他備考
	平常点		
	小テスト	30	理解度を確認するための小テストを課す（Google Classroomでの実施を想定）。
	レポート	70	経済統計を用いた分析を実践するレポートを課す。
	定期試験		
	その他		

事前・事後学習	
---------	--

事前受講を推奨する科目	
-------------	--

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『使用しない』			

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『経済統計の活用と論点(第3版)』	梅田雅信・宇都宮浄人	東洋経済新報社	2009

備考	
----	--

授業の計画

1	イントロダクション	講義の方法、内容、スケジュール等について
2	統計分析の手法(1)	代表値、ばらつき、相関
3	統計分析の手法(2)	時系列分析、季節調整
4	国民・県民経済計算	国内総生産、県内総生産
5	景気動向に関する指標	景気動向指数、景気ウォッチャー調査、日銀短観、RDEI
6	人口に関する統計(1)	国勢調査
7	人口に関する統計(2)	人口動態統計、住民基本台帳人口、将来人口推計
8	雇用に関する統計	労働力調査、毎月勤労統計、賃金構造基本統計調査
9	消費に関する統計	家計調査、消費動向調査
10	所得・家計に関する統計	全国家計構造調査、住宅・土地統計調査
11	投資に関する統計	建築着工統計、機械受注統計など
12	企業財務に関する統計	法人企業統計、日銀短観
13	国際収支に関する統計	貿易統計、国際収支統計
14	物価に関する統計	消費者物価指数、小売物価統計調査、企業物価指数
15	全体のまとめ	講義の振り返り、まとめ

授業科目名	東アジア経済論	担当教員名	猿渡 剛				
科目ナンバリング		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	2年生

授業概要	この授業では、なぜ東アジア地域・諸国の経済開発が相対的に成功してきたのか、その要因を探るとともに、東アジアのなかで日本が果たすべき役割について海外直接投資の統計・データなどに基づいて考えていきます。具体的には、海外直接投資が受入国・送出国の双方にさまざまな影響を与えることを確認し、種々のデメリットを踏まえた上で、直接投資の恩恵を最大化するためには何をすればよいのかを一緒に考えていきます。そして最後に、急速に発展する東アジア地域のなかで日本がどのような変化を遂げるべきなのかについて私案を提示したいと思います。
------	--

到達目標	東アジアの重要性の高まりを理解する。東アジア地域・諸国の経済発展の要因を理解する。グローバリゼーションの進展に伴う東アジア経済の構図の変容を理解する。日本経済の問題点と今後の方向性を理解する。～を通じて、東アジア経済に関する学術書の内容を理解したうえで、望ましい日本経済のあり方ならびに東アジア諸国との関係を自ら考え、議論することができるようになる。
------	---

評価の方法と基準	評価方法	割合 (%)	評価基準・その他備考
	平常点		
	小テスト	30	小テストを2回課す予定です。
	レポート		
	定期試験	70	空欄補充問題と論述問題で構成される期末試験があります。
	その他		

事前・事後学習	事後学習として資料や動画に再度目を通し、授業内容を各自整理しておいてください。
---------	---

事前受講を推奨する科目	
-------------	--

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『教科書は使用しません』			

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『岐路に立つアジア経済 米中対立とコロナ禍への対応』	石川幸一・馬田啓一・清水一史編	文真堂	2021年

備考	PPTスライドまたは板書によって授業を進めていきます。
----	-----------------------------

授業の計画

1	イントロダクション、直接投資とは何か	授業概要、授業の進め方、評価の方法と基準、直接投資の定義
2	海外直接投資とは何か	海外直接投資の2類型、日本の海外直接投資残高
3	日本は「お金持ち国家」	対外純資産の定義、統計でみる対外純資産、日本の対外純資産残高の推移、世界の対外・対内直接投資に占める先進国と発展途上国の割合
4	海外直接投資の近年の傾向	& Aシェアと経常収支・第一次所得収支の推移の解釈、企業の稼ぎ方の変化
5	経済停滞から脱出するために(1)	日本は豊かな国なのか、生活が苦しいと感じる理由
6	経済停滞から脱出するために(2)	「安い」日本、低い労働生産性
7	経済停滞から脱出するために(3)	変わりゆく賃金制度、加熱する人材獲得競争
8	経済停滞から脱出するために(4)	日本的雇用慣行の行く末、海外資本と日本のリゾート
9	経済停滞から脱出するために(5)	製造業、アニメ産業における海外直接投資の受け入れ
10	海外直接投資と租税回避(1)	ウェルス・マネジャーとは何か、タックスヘイブンと多国籍企業
11	海外直接投資と租税回避(2)	オフショア金融センターの台頭、ウェルス・マネジメントと海外直接投資、国外脱出・その理由と背景、日本企業によるオフショア金融センターの活用事例
12	東アジアでの & A(1)	海外での事業展開、マイノリティ出資でリスク分散、マジョリティ取得でスピードアップ
13	東アジアでの & A(2)	海外M&Aのメリットと課題、 & A 3つの波、 & Aのメリットに中小企業も気づく
14	東アジアでの & A(3)	海外 & Aの現状、相手の会社ではなくオーナー個人を評価する、アドバイザーを活用し案件を選ぶ、日本企業特有の注意点
15	まとめ	授業の振り返り、期末試験についての説明

授業科目名	経済原論	担当教員名	関野 秀明				
科目ナンバリング		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	2年生

授業概要	<p>90年代後半以降の「構造改革」、その後のアベノミクスとそれを継承する政治の下で深刻化する貧困と格差、そして拡大する戦争準備の危機を、『資本論』第一部賃金論、資本蓄積論および第二部第一草稿、第三部商業信用論、銀行信用論や『57・58年草稿』の恐慌論に立ち返り説明します。</p> <p>アベノミクス「三本の矢」の相互促進的關係、アベノミクスの失敗と金融バブル誘導政策の關係、成長戦略の「株主・株主資本主義」的歪みを、『資本論』第二部、第三部の「バブルの論理」「資本の過多と過剰生産の相互促進論」「資本の物神性論」などに立ち返り説明します。</p> <p>2008年に世界資本主義を揺るがした「リーマン・ショック」、その原因である「住宅関連バブル」を「史上最高に発達した『バブルの論理』」として説明します。</p>					
到達目標	<p>「ブラック企業」「社会保障へのパッシング」「株主・株主資本主義」「グローバル化と安全保障政策の転換」などを、統計的事実から理解すること。</p> <p>量的金融緩和が大企業減税や労働規制緩和、社会保障の産業化、貿易、投資自由化と結合し株式バブルを誘導する、政策の相互作用を理解すること。</p> <p>アベノミクス、成長戦略の本質をマルクス『資本論』に立ち返り理解すること。</p>					
評価の方法と基準	評価方法	割合(%)	評価基準・その他備考			
	平常点					
	小テスト					
	レポート					
	定期試験	100				
	その他		定期試験実施不可の場合別途指示			
事前・事後学習	<p>毎回の授業は「講義資料」を配布し進める。その講義について、参考書、関野秀明『金融危機と恐慌 資本論で考える現代資本主義』新日本出版社、2018年、の当該箇所を読むことが予習、復習ともに役に立つ。授業、予習、復習、試験勉強、定期試験の全てを、授業で配布する「講義資料」と上記参考書を使って行う。</p>					
事前受講を推奨する科目	経済原論					
教科書	書籍名	著者	出版社	出版年		
参考書	書籍名	著者	出版社	出版年		
	『金融危機と恐慌』	関野秀明	新日本出版社	2018年		
備考	<p>対面授業を予定している。対面授業継続が困難な場合は以下の通り。遠隔授業はgoogle driveの資料で実施。学年暦、時間割に従い資料提供。Powerpointを閲覧しWord資料に書き込み定期試験を受けること。</p>					

授業の計画

1	「ブラック企業と『資本論』(1)」	1、「若者絡め取り」メカニズムとマルクス「相対的過剰人口論」
2	「ブラック企業と『資本論』(2)」	2、「固定残業代」制度とマルクス「時間賃金論」 3、「無限の成果要求」とマルクス「出来高賃金論」
3	貧困、生活保護叩きと『資本論』(1)	1、貧困ゆえの「生活保護バッシング」 2、非正規労働の貧困。有期労働契約法改悪 3、電機正社員13万人大リストラという貧困
4	貧困、生活保護叩きと『資本論』(2)	4、「3つの貧困」を結ぶメカニズムと資本主義の格差 5、マルクス「資本の蓄積に照応する貧困の蓄積」論
5	「アベノミクスの貧困と戦争への道(1)」	1、貧困の特徴 生活苦、非正規増大、正規処遇低下 2、格差の特徴 大企業・富裕層の高収益と労働者の低賃金 3、働く貧困と社会保障削減
6	「アベノミクスの貧困と戦争への道(2)」	4、矛盾の反動的打開 多国籍企業化と安全保障政策の転換 5、「『資本論草稿』における世界市場開拓論。恐慌と世界市場論。
7	アベノミクス・バブルの形成と崩壊(1)	1、アベノミクスの不況脱却策と現実 2、アベノミクス「3本の矢」と金融バブルの形成
8	アベノミクス・バブルの形成と崩壊(2)	3、バブルとは何か - マルクス「資本の過多と過剰生産の相互促進論」
9	アベノミクスの失敗と暴走(1)	1、繰り返される「異次元の金融緩和」の失敗 2、「金融緩和」から「成長戦略」待望への暴走
10	アベノミクスの失敗と暴走(2)	3、アベノミクス・バブル待望論と『資本論』第二部「バブルの論理」
11	アベノミクス成長戦略の欺瞞性(1)	1、「成長戦略」の欺瞞性 2、「欺瞞性」の原因。株価・株主資本主義の台頭 3、アベノミクス「欺瞞性」の限界
12	アベノミクス成長戦略の欺瞞性(2)	4、「株主資本主義」の本質。『資本論』第三部「バブルの論理」と「株式資本」論。
13	リーマン・ショック。発達したバブル(1)	1、ITバブル崩壊、2001年不況と住宅関連バブル 2、米国「新型」住宅関連バブル。そのメカニズム
14	リーマン・ショック。発達したバブル(2)	3、米国住宅関連バブルの崩壊。そのメカニズム
15	リーマン・ショック。発達したバブル(3)	4、住宅関連バブル崩壊と「過剰生産恐慌」 マルクス「金融危機と結合した過剰生産恐慌」論

授業科目名	日本経済論（1年生）	担当教員名	川波 洋一				
科目ナンバリング		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	1年生

授業概要	<p>本講義は、主として戦後の日本経済の変遷をたどりながら、わが国経済が抱えている問題、政策的な特徴、世界経済におけるポジション、これからの日本経済について考える。大学に入学して最初に聴く講義であるという点に鑑み、できるだけ経済学への誘いとなるように平易に講義を進める。その際、物価、インフレ、デフレ、景気循環、不況や好況、経済成長、財政政策や金融政策などの経済政策、雇用や社会保障、産業構造や日本型経営、アジア経済や世界経済との関連など、基本的な問題についての知識が深められるようになることが目標である。経済学においては、専門的な用語を使うことがあるが、じっさいはわれわれの身の回りで起こっている身近な問題であることを実感してほしい。そうすることによって、受講者は、日本や世界で現実には生起するさまざまな経済問題に対する関心を持つようになり、それが大切である。受講者には、日本や世界で起こっている経済現象に目を向ける意味で、日々新聞に目を通すことを薦めたい。</p>
------	--

到達目標	<p>本講義の到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞や雑誌等の媒体を通じて経済現象を観察できるようになること。</li> <li>・基本的な経済学の用語に慣れ、日常的な学習において使えるようになること。</li> <li>・大戦後の日本経済の大まかな流れと現時点において日本経済が抱える問題を把握すること。</li> <li>・世界経済のなかでの日本経済の位置付けや他の国々との関係について説明できるようになる。</li> <li>・日本経済の将来について展望を持ち、他の人に語れるようになること。</li> </ul>
------	--

評価の方法と基準	評価方法	割合（％）	評価基準・その他備考
	平常点		
	小テスト		
	レポート	20	講義の内容に関すること。
	定期試験	80	講義の内容に関する問題について記述式にて回答。
	その他		

事前・事後学習	<p>指定するテキスト参考書について事前に目を通し、予習をしておくこと。また、日々起こっている経済現象に関心を持つことが大切である。そのためには、『日本経済新聞』をはじめとする新聞や雑誌（エコノミスト誌や週刊東洋経済など）に目を通し、経済現象の観察をすること。自然科学者が自然現象を観察するのと同様に、経済学を学ぶものは、日々生起する経済現象を観察する態度を身につけることが大切である。</p>
---------	---

事前受講を推奨する科目	経済学入門	
-------------	-------	--

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『現代日本経済』	橋本寿朗他著	有斐閣	2019年

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『現代日本金融論(新版)第II部』	川波洋一・上川孝夫編著	有斐閣	2016年

備考	
----	--

授業の計画

1	日本経済論では何を学ぶのか？	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経済学って何だろうか？</li> <li>2. 日本経済論ではどのようなことを学ぶのか？</li> <li>3. 日本経済論を学ぶことの大切さ</li> </ol>
2	現代の日本経済を見る目を養う	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代の日本経済を見る目を養う</li> <li>2. どのような観点から日本経済を見るのか？</li> <li>3. 日本経済の現状。どんな問題を抱えているのか？</li> </ol>
3	戦後の日本経済の歩み	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 戦後日本経済の枠組み</li> <li>2. 日本の経済復興</li> <li>3. ドッジラインと市場経済への移行</li> </ol>
4	日本の高度経済成長	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本の高度経済成長—どのようにして豊かになったのか？</li> <li>2. 産業構造の高度化</li> <li>3. 様々な産業政策の導入</li> </ol>
5	成長を支えた仕組み	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成長を支えた仕組みはどのようなものであったか？</li> <li>2. 労働</li> <li>3. 資本</li> <li>4. 技術</li> </ol>
6	日本経済の転機	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本経済の転機—二つのショックー</li> <li>2. 石油危機とスタグフレーション</li> <li>3. 安定成長への移行</li> </ol>
7	赤字国債の発行と日本企業の国際競争力	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 赤字国債の発行</li> <li>2. 増税論と行財政改革</li> <li>3. 日本企業の国際競争力</li> </ol>
8	バブルの形成と崩壊	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アメリカ経済との関係</li> <li>2. バブルの形成</li> <li>3. 資産価格の下落と実体経済の縮小</li> </ol>
9	グローバル化のなかの日本経済	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 債権大国への道</li> <li>2. 金融自由化と金融ビッグバン</li> <li>3. 日本的システムの確立</li> </ol>
10	長期停滞のなかの日本経済	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 失われた30年への道</li> <li>2. デフレの深刻化</li> <li>3. 財政赤字の深刻化</li> </ol>
11	日本企業の海外進出	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. プラザ合意</li> <li>2. 海外直接投資と新興経済圏の経済成長</li> <li>3. アジア経済と日本経済</li> </ol>
12	日本型システムの転換	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 企業システムの転換</li> <li>2. メインバンクシステム</li> <li>3. 雇用システムの変容</li> </ol>
13	アベノミクスの実験 I	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 3本の矢とアベノミクス</li> <li>2. ゼロ金利から量的金融緩和政策政策へ</li> <li>3. 成長戦略の意味</li> </ol>
14	アベノミクスの実験 II	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アベノミクスとは何だったかの？</li> <li>2. 成長と分配の好循環</li> <li>3. アベノミクスの転機</li> </ol>
15	世界経済のなかの日本経済	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 低い成長率</li> <li>2. 日本が抱える構造的な問題</li> <li>3. 日本経済に未来はあるか？</li> </ol>

授業科目名	経済学史	担当教員名	川脇 慎也				
科目ナンバリング		開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	2年生

授業概要	この授業では下記の授業計画にしたがって、19世紀における限界革命から20世紀のマネタリストまでの経済学説を取り上げます。様々な学説や思想はなぜ、どのように生まれたのか、その時代背景・思想・経済理論の関連について理解を深めます。現代社会における諸問題の解決策を模索するうえで、過去の議論はどのように役立つのでしょうか。一連の学習を通して、多様な経済学説・思想の知識と、それを活用する思考力を身につけましょう。授業は配布資料を使用する通常の講義形式です。
------	---

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各経済学説の重要語句を理解し、説明できるようになる。</li> <li>2. 各経済学説の要点を簡潔にまとめることができるようになる。</li> <li>3. 各経済学説を歴史的文脈のなかで理解することができるようになる。</li> <li>4. 経済学史の観点から、現代の経済問題を理解し、その解決策を考えることができるようになる。</li> </ol>
------	--

評価の方法と基準	評価方法	割合 (%)	評価基準・その他備考
	平常点	50	授業後のミニッツペーパーの内容で評価します。
	小テスト		
	レポート		
	定期試験	50	試験問題は論述です。授業の要点をおさえた論述ができているかどうかで評価します。
	その他		

事前・事後学習	事前に配布される授業資料を熟読のうえ、授業に臨んでください。復習は重要語句を中心に授業内容を整理して再確認しましょう。
---------	---

事前受講を推奨する科目	
-------------	--

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『教科書は使用しない』			

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『経済学史』	小峯敦	ミネルヴァ書房	2021

備考	
----	--

授業の計画

1	授業のガイド	受講上の注意、経済学史とは
2	限界革命	限界革命のトリオと限界効用理論
3	アルフレッド・マーシャル	新古典派経済学の形成と展開
4	アルフレッド・マーシャル	部分均衡理論
5	ヴェブレン	ものづくり本能と競争心：進化と経済
6	ヴェブレン	有閑階級と産業社会
7	シュンペーター	創造的破壊と新結合
8	シュンペーター	景気循環論
9	ケインズ	マクロ経済学の誕生
10	ケインズ	時間選好説と流動性選好説
11	ハイエク	貨幣と金融政策
12	ハイエク	ニュー・リベラリズムとネオ・リベラリズム
13	フリードマン	恒常所得仮説
14	フリードマン	自然失業率仮説と長期フィリップス曲線
15	授業の総括	新古典派経済学の特徴と限界

授業科目名	産業組織論	担当教員名	佐藤 隆				
科目ナンバリング		開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	3年生

授業概要	産業組織論とは、産業のあり方を市場の場で捉え、市場の構造、行動、成果の諸側面から検討し、市場をより効率的に機能させるための方策を解明することを目的としている。特に産業組織論では、独占禁止政策（競争政策）に焦点を当て、公正な競争のあり方とは何かについて考える。できるだけ個別に産業・企業をとりあげ、独占禁止法上（競争政策上）の問題をケース・スタディによって具体的にみながら、産業における市場のパフォーマンスを引き上げるためにどのような政策がとられているかについてみていく。						
到達目標	市場メカニズムを理解し、市場構造、市場行動(企業の戦略的行動)、市場パフォーマンスの関係を理解する。 独占禁止政策を理解する。 独占禁止政策によって産業のパフォーマンスがどのように改善されるかについて理解する。						
評価の方法と基準	評価方法	割合 (%)	評価基準・その他備考				
	平常点						
	小テスト	80	毎回確認小テストを実施。リアクションペーパーも参考				
	レポート	20	レポート課題				
	定期試験		感染状況による				
	その他						
事前・事後学習	事前学習としては、配布プリントなどを読む。事後学習としては、配布プリントなどのわからない点を調べたり、参考書などでさらに理解を深める。						
事前受講を推奨する科目	ミクロ経済学						
	応用ミクロ経済学						
教科書	書籍名	著者	出版社	出版年			
	『競争政策論（第2版）』	小田切宏之	日本評論社	2017年			
	『産業組織論』	小田切宏之	有斐閣	2019年			
参考書	書籍名	著者	出版社	出版年			
	『競争政策の経済学』	大橋弘	日本経済新聞社	2021年			
備考							

授業の計画

1	はじめに	講義全体の概略の説明
2	競争政策（１）	競争政策とは何か？独占禁止法入門
3	競争政策（２）	競争政策はなぜ重要か？独占禁止法の解説（外部講師の招へい）
4	産業組織論の方法論的基礎	SCPパラダイム：市場構造・市場行動・市場成果
5	市場の諸類型（１）	市場構造と競争形態（完全競争・独占・寡占・独占的競争）
6	市場の諸類型（２）	市場構造と競争形態（ハーフィンダール指数）
7	コンテストابل・マーケット	航空産業の事例
8	地域独占産業の事例	日本の電力システムの構造改革
9	共謀と暗黙の協調	カルテル（談合）と暗黙の協調
10	M&Aについて	M & Aの定義、事例研究など
11	垂直的取引制限	再販と二重の限界性、販売サービスただ乗り問題、資生堂による対面販売の義務付け
12	ネット取引とプラットフォーム	プラットフォームという考え方、双方向市場の競争政策
13	ネット取引とプラットフォーム(続)	間接ネットワーク効果 データの集中がもたらす市場集中問題
14	優越的地位の濫用	優越的地位の濫用の規制と下請取引
15	全体のまとめ	講義全体のまとめ

授業科目名	日本経済史	担当教員名	鷲崎 俊太郎				
科目ナンバリング		開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	2年生

授業概要	<p>本講義では、16世紀末の徳川幕府成立前夜から1930年代までの約400年にわたる日本経済の変化を、マクロ的・ミクロ的に概観する。</p> <p>講義では、日本経済の発展パターンおよびメカニズムの解明に重点をおくとともに、九州経済の発展とその経済史的な位置づけについても、できるだけ考察してみたい。</p> <p>講義は、毎回設定したテーマに沿って、欧米・アジア経済史や現代の日本経済との関連性についても紹介しながら進める。</p>
------	--

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代経済社会が抱える問題を理論的・構造的視点から把握することができる。</li> <li>・産業の将来動向を予測し、望ましい経済社会のための産業政策の企画に取り組みすることができる。</li> <li>・産業の消長を歴史的・実証的に分析することができる。</li> </ul>
------	--

評価の方法と基準	評価方法	割合 (%)	評価基準・その他備考
	平常点	20	Minute Paperへの授業内容要約
	小テスト	30	Minute Paperへの授業内容感想
	レポート		
	定期試験	50	論述力
	その他		

事前・事後学習	<p>【事前】講義スライドのダウンロード</p> <p>【事後】コメントペーパーの提出</p>
---------	---

事前受講を推奨する科目	
-------------	--

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『日本経済史』	浜野潔・井奥成彦ほか	慶應義塾大学出版会	2009
	『日本経済史』	杉山伸也	岩波書店	2012
	『日本経済史』	武田晴人	有斐閣	2019

備考	
----	--

授業の計画		
1	日本経済史へのいざない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・だまし絵と経済史との関係</li> <li>・九州・福岡の日本経済史的位置づけ</li> <li>・毎回講義の流れ，学習方法，ターム・スケジュール</li> </ul>
2	近世東アジアの国際情勢	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アジア域内貿易</li> <li>・対馬-朝鮮ルート</li> <li>・「鎖国」の経済史的意義</li> </ul>
3	徳川社会の農業生産と市場経済化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・徳川日本における人口推移と経済発展</li> <li>・18世紀の農業</li> <li>・大坂を中心とした流通ネットワーク</li> <li>・金融ネットワーク</li> </ul>
4	徳川時代の財政・経済政策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・元禄・宝永の貨幣改鑄</li> <li>・享保改鑄とデフレーション</li> <li>・田沼時代の貨幣政策</li> <li>・天保の改革</li> </ul>
5	幕末開港と開放経済への転換	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在郷商人の誕生</li> <li>・横浜開港，安政の5か国通商条約</li> <li>・金銀比價問題</li> <li>・文政～開港のインフレーション</li> </ul>
6	明治政府の財政・金融政策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明治政府の経済的課題</li> <li>・版籍奉還，廃藩置県，地租改正，秩禄処分</li> <li>・新貨条例，金銀複本位制</li> <li>・銀行制度</li> </ul>
7	明治政府の産業政策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工部省の誕生とその政策</li> <li>・官営工場の設立と限界</li> <li>・内務省の産業政策</li> <li>・海運業の保護・育成</li> </ul>
8	大隈財政と松方財政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西南戦争の勃発と政府支出の増加</li> <li>・大隈財政</li> <li>・明治14年の政変，松方デフレと緊縮財政</li> <li>・松方正義による金融政策</li> </ul>
9	企業勃興期と日清戦後経営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会社設立ブームの到来</li> <li>・企業勃興期，綿紡績業</li> <li>・日清戦争，下関条約</li> <li>・金本位制，条約改正</li> </ul>
10	日露戦後経営と植民地の動向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本と台湾・朝鮮間の移出入額</li> <li>・炭鉱業の発展と公害問題の発生</li> <li>・鉄道国有化，鉄道株売却後の投資先</li> </ul>
11	第一次世界大戦と日本経済	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第一次世界大戦の特徴</li> <li>・日本の対外直接投資</li> <li>・1920年代の重化学工業化</li> <li>・電力業の発展</li> </ul>
12	1920年代の財政・金融政策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワシントン会議，関東大震災の発生</li> <li>・金融恐慌</li> <li>・浜口雄幸内閣の成立，井上財政</li> <li>・金本位制の復帰，世界恐慌</li> </ul>
13	高橋財政と大衆消費社会の到来	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高橋財政</li> <li>・外資の撤退と民間資本形成の増加</li> <li>・産業間における労働生産性の格差</li> <li>・中等・高等教育進学者の増加</li> </ul>
14	琉球・沖縄の経済史	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中世の琉球とグスク時代</li> <li>・島津氏の琉球侵攻，慶賀使・謝恩使</li> <li>・琉球藩の設置，琉球処分，沖縄県の設置</li> <li>・沖縄戦，米軍占領，本土復帰</li> </ul>
15	教場試験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内容の包括的な理解を問う論述問題</li> </ul>

授業科目名	経済統計	担当教員名	小柳 真二				
科目ナンバリング		開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	2年生

授業概要	<p>経済統計を使いこなすには、どのような統計データがあるか、どのようにして作成されたものであるかを理解した上で適切なデータの選択や、効率的な収集を行う必要がある。本講義（経済統計 および ）では、経済統計への向き合い方や、個々の統計の特性について解説を行い、また実際の分析事例を示す。経済統計 では、主に各種産業や、交通、金融、財政に関する広範な統計データを取り上げて解説する。</p>
------	--

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世の中にどのような統計データがあるか知識を広め、分析のレパートリーを増やす。</li> <li>・各種統計の利用シーンや有用性に加え、特有のクセや限界を理解する。</li> <li>・統計データを読み解く力を身につける。</li> </ul>
------	---

評価の方法と基準	評価方法	割合（％）	評価基準・その他備考
	平常点		
	小テスト	30	理解度を確認するための小テストを課す（Google Classroomでの実施を想定）。
	レポート	70	経済統計を用いた分析を実践するレポートを課す。
	定期試験		
	その他		

事前・事後学習	<p>【事前】新聞・テレビ等の経済指標に関する報道で、どのような経済指標が、どのような場面・目的で利用されているか日常的にチェックしてください。</p> <p>【事後】講義で取り上げる統計データにアクセスし、どのようなデータがあり、どのような分析が可能であるか確認してください。</p>
---------	---

事前受講を推奨する科目	経済統計	
-------------	------	--

教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『使用しない』			

参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『図説九州経済 2023』	九州経済調査協会編	九州経済調査協会	2022

備考	
----	--

授業の計画		
1	イントロダクション	講義の方法、内容、スケジュール等について
2	事業所・企業の構造に関する統計	事業所・企業統計、経済センサス、経済構造実態調査
3	農林水産業に関する統計	農林業センサス、生産農業所得統計
4	製造業に関する統計	工業統計、鉱工業指数
5	商業・サービス業に関する統計	商業統計、特定サービス産業実態調査、第3次産業活動指数
6	観光に関する統計	宿泊旅行統計調査、日本政府観光局の各種統計
7	交通・物流に関する統計	港湾統計、自動車輸送統計調査、道路交通センサス、貨物・旅客地域流動調査
8	エネルギー・環境に関する統計	電力調査統計、自治体排出量カルテ
9	金融に関する統計	金融、株価・為替、商品市況に関する各種統計
10	財政に関する統計	国家財政、地方財政に関する各種統計
11	社会保障に関する統計	厚生労働省等の社会保障に関する各種統計
12	産業連関表	産業連関表の見方、産業連関表による分析、経済波及効果
13	外国人に関する統計	在留外国人統計、外国人雇用状況、出入国管理統計
14	国際比較のための統計	OECD、IMF等がまとめる統計
15	全体のまとめ	講義の振り返り、まとめ

授業科目名	西洋経済史	担当教員名	長濱 幸一				
科目ナンバリング		開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	2年生

授業概要	(テーマ) 講義のテーマは「地域としてのヨーロッパ経済」の歴史的歩みを考察することにあります。経済発展の前提として「国民国家」が不可欠であるという見解は、今日では必ずしも適切ではないとの批判にさらされています。その点で、ヨーロッパは国民国家を建設したモデルケースであり、同時に国家の枠組みを解体して「ヨーロッパ地域」に制度的実態を与えようとする先駆的な試みを行っている地域でもあります。このような歩みを歴史的に辿ることで、ヨーロッパの社会経済に関する理解を深めることを目指します。						
到達目標	1. 知識・・・西欧経済社会の各時代の特徴を理解できる 2. 思考・・・図表を読み取り獲得した知識を活かして深い思考ができるようになる 3. 表現力・・・課題や試験において適切な表現で記述できるようになる 4. その他・・・西洋経済史についての興味関心を高めることができる						
評価の方法と基準	評価方法	割合(%)	評価基準・その他備考				
	平常点	60	課題の取り組み状況				
	小テスト						
	レポート						
	定期試験	40	講義に関する内容を問います				
	その他						
事前・事後学習	毎回、学習内容に関連した課題を課すことになり、期限内に調査した内容を提出してもらいます。						
事前受講を推奨する科目	西洋史						
	経済学史						
教科書	書籍名	著者	出版社	出版年			
	『西洋経済史』	奥西孝至ら	有斐閣	2012年			
参考書	書籍名	著者	出版社	出版年			
備考	対面での講義が予定されています。もしそれが困難な場合はオンデマンド型の実施を想定しています。いずれにしても、講義内容は変更の可能性があるため、その点承知しておいてください。						

授業の計画		
1	ガイダンス	講義の目的、成績の評価方法などについて説明します
2	中世ヨーロッパの都市と農村世界	中世社会を構成する都市と農村の特徴を把握します。食・交易をキーワードに読み解くこととなります
3	中世の経済発展と限界	1000年間続いた中世という時代がどのような危機に直面したかを理解してもらいます
4	ヨーロッパの拡大と国際競争の開始	ヨーロッパ地域内の分業、オランダの台頭、価格革命といったキーワードを中心に近世のヨーロッパ経済の成長を考察します
5	17世紀の危機	オランダのヘゲモニー(覇権)の衰退を中心にヨーロッパ経済が縮小していった背景を検討します
6	産業革命を巡る論争	イギリス産業革命に関するマクロ的な指標を検討し、産業革命という現象がどのように理解されてきた学説の推移も検討します
7	工業化の社会的影響	革命性が否定されつつある「産業革命」が人々の生活や思考にどのような影響を及ぼしたのかを検討します
8	様々の工業化の経路	大陸諸国を例に工業化の多様な経路を、国民国家の形成のプロセスの違いと絡めて学ぶ
9	合衆国の独立の影響	合衆国独立の社会経済的影響を検討することにします
10	合衆国の台頭	南北戦争とそれ以降の経済発展について検討することにします
11	世紀末のヨーロッパ経済	第二次産業革命期のヨーロッパ経済を、イギリスの相対的な地位の低下と関連付けて学びます
12	第一次世界大戦から戦間期の欧米経済	第一次世界大戦勃発の背景・影響を踏まえた後、戦後復興から世界恐慌に至る経過を「不安定の中の安定」というキーワードで考察します
13	第二次大戦後の西洋経済	戦後のヨーロッパ経済が「混合経済」に代表されるように市場機能への疑念の基に再興した経過を理解し、現代のEUへの移行にも触れてみたいと思います
14	フェアトレードの広がり	近年、急速に普及しつつあるフェアトレードについて検討し、21世紀のあるべき経済社会について考えます
15	総括	ここまでの内容を総括することにします